

クローバー通信



女性医師へのメッセージ 「熱いものを得るために」 小児科 杉田 憲一

女性支援ないしは女性医師という言葉からは、保育所の整備等が子育て支援のすべてのように聞こえてくる。勿論それは大切なことである。しかし、何かもう1つ女性医師支援とすると他にもありそうな気がする。

まずは子育てについて。鳥たちは夫婦共同しての子育てをすることはよく知られている。何のわけがあつてか、哺乳類になってオスは子育てをすることをしなくなった。それをよいことにして、自分は子育てをしなかった。娘の結婚式で、「何もお世話になった記憶がありません」が父親への言葉であつた。お世辞を言わなかったことがかえって、納得できた。そんなことがあつても、ヒトにとっても子育ての役割の半分以上は女性だと思っている。

改めて、その他とは何だろうか。子育てのための時間を得られる環境は最低限のことである。もうひとつは、女性医師が子育て中も意欲を失わないようにすること、医療知識の維持、継続ができるようにすることと考える。そのためにはどうすればいいのか。子育てで休職時にも職場とのコミュニケーションをよくしておくこと、またそのような職場環境であることが必要である。そうすることで、勤務状態の現況、最新の医療情報の提供を受けることも可能になる。時間を見つけては週1回程度の医療実践も必要と思われる。その時、男性の出番であり、この協力は、男性の職場でも可能としなければならない。また、フルタイムの勤務ではなくても、それに近いやりがい感の得られる職場の体制づくりも必要である。ただ、どのような体制でも、子どもを残しての勤務にはつらさを感じるかもしれない。でも男女に限らず、つらい環境を克服してなんぼ…との自覚も必要かと思っている。

小生もなく退職である。嬉しかったこと、つらかったことが、今は仕事をしたあかしと考えている。若い女性医師の方々も、小生と同じ年齢になった時、「熱い涙で振り返り見るもの」がいっぱいあることを願ってやまない。そういう職業である医師になったのだから。

クローバー交流会の報告 〈今回の報告記事を、医学部3年生の阿久津律人さんが書いてくれました。〉

今回のクローバー交流会には遅れての参加だったので、小児外科の荻野先生のお話は聞けず、循環器内科の早川先生のお話を聞いた。公務員であるご主人は育児休暇制度が充実しているばかりか、子育てにとっても協力的で、医師としての早川先生を支えておられる様だった。医療と子育ての両立、理想の将来像だなと感じた。どちらを優先するかは人それぞれ、と言ってしまうとそれまでなのだけれど、私自身は優先順位などつけられないくらいどちらも大切だと思っている。

結婚したら、相手には家庭に専念して欲しいと思う男性がまだ少なくない世の中であると思うが、男性自身はどうしたいと思っているのであろうか？女性に家庭を任せる、ということは自分は仕事に専念してあまり家庭に関われない？医師としては良いのかもしれないが、一家庭の夫としてはどうなのだろうかと思ってしまう。ただ、そうではなく、男性自身が家庭にも関わり仕事もしていきたいと思っているのであれば、それは女性も同じ考えを持っているということを知ってもらいたい。現在の日本の医師不足の原因の1つとして、女性医師が産休・育休によっていったん現場を離れてしまうと、周囲の環境やサポート不足でなかなか現場に戻れないという現状がある。そのためにも、是非、女性医師の考えていることを多くの人に知ってもらいたいと思う。前回と違い、今回のクローバー交流会の男性参加者は自分1人になってしまった。男性医師にもこのような交流会に興味を持って参加してもらうにはどうしたら良いか、今後の課題であると思う。また、学生にも「まだまだ先のことから」という理由でなかなか参加に至らない人が多いと思う。いざ自分がそういう立場になってから考えるのではきっと遅いので、今のうちから興味を持ってもらいたい。それはきっとクローバー交流会に実際に参加した学生だからこそできることであり、他の学生が「参加したい」と思えるように今後もメッセージを伝えていきたい。

(文責：医学部3年生 阿久津律人)

クローバー交流会のお知らせ

● 日時 2月27日(水) 18:00~19:30

● 場所 女性医師支援センター クローバー

● ロールモデル紹介 《教育支援センター》西山 緑 先生 《眼科》田中 智子 先生

飲み物と軽食(お子様にはおもちゃも)を用意してお待ちしておりますので、ぜひお誘い合わせの上、ご参加ください。

